

# 平成29年度 子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

社会教育課

## 1 調査目的

平成26年度に「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン（第3次計画）」（平成26年4月から概ね5年間の計画）を策定し、子どもの読書活動推進施策を進めている。

この度、平成31年度以降の新たな計画の策定に向け、本県の子どもたちを取り巻く読書環境について実態把握を行い、今後の具体的施策を検討する上での参考とするため、アンケートを実施した。

## 2 調査方法

### (1) 実施時期

平成29年11月24日～12月28日

### (2) 対象

対象	対象校（園・所）数	アンケート回収枚数
幼稚園、保育園、認定こども園 年長児保護者	20	364
小学3年生	23	706
小学6年生	23	746
中学3年生	18	606
高校2年生	8	279
大学生	4	241
合計	96	2,942

## 3 調査結果の概要（※アンケート調査の詳細は別添のとおり。）

### (1) 年長児保護者

#### ①家庭での読み聞かせ

- ・家庭での読み聞かせを行わない割合が前回調査から減少した（今回5.8%←前回10.4%）ほか、週3～4日以上実施する割合が48.1%（前回45.6%）と増加している。読み聞かせへの意識が高まっていると考えられる。＜問4＞

#### ②公立図書館の利用

- ・前回調査より公立図書館を利用しない割合が減少した（今回48.7%←前回53.7%）。＜問11＞
- ・公立図書館を利用しない理由としては、前回調査同様「幼稚園・保育所・認定こども園で本を借りられるから」が最も多い（今回51.6%←前回64.5%）。また、今回調査から選択肢に加えた「借りたり返したりする手間が面倒だから」が28.4%と比較的多く存在する。＜問12＞

#### ③電子書籍の利用

- ・子どもに読み聞かせをする際に電子端末（タブレットやスマートフォンなど）を「利用したことがある」のは10.9%のみであり、電子メディア機器の普及が著しい中でも、紙の本での読み聞かせが大多数であることがわかる。＜問14＞

- ・子どもたちの読書について「電子書籍が普及しても、子どもには紙の本を読ませたい」が前回調査より大幅に増えた（今回41.6%←前回18.4%）。電子メディア機器が急速に普及する中でも、紙の本の良さを感じる保護者も多い。一方で、「デジタル化は世の中の流れなので紙の本と電子書籍を区別する必要はない」も増加している（今回8.3%←前回4.6%）。

<問18>

#### ④保護者の読書習慣

- ・保護者自身の読書習慣について、「ときどき読む」の回答が最も多く、34.2%。一方「ほとんど読まない」「全く読まない」割合が5割を超える（51.2%）。<問19>
- ・なお、設問やアンケート対象が異なるが、類似の全国調査の結果と比較すると、同様の傾向が見られる。

<【参考】株式会社クロスマーケティング 読書に関するアンケート（2017版）から抜粋  
読書習慣の有無>

	H29	H27	差
読書の習慣がある	39.4%	50.8%	△11.4
読書の習慣はない	60.6%	49.3%	+11.3

※調査対象：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の15～69歳の男女（有効回答数1,200）  
調査期間：平成29年10月18日～10月19日

- ・「ほとんど読まない」「全く読まない」の理由としては、「家事や仕事や育児で忙しいから」が最も多く72.3%。<問20>

## (2) 小学生～大学生

### ①読書に対する意識

- ・前回調査と同様の傾向であり、大学生を除き、学年が上がると読書が「好き」「どちらかという」と好きの割合は減少している。
- ・小学生では、読書が「好き」「どちらかという」と好きが前回調査から増加しているが（小3：+0.4ポイント、小6：+4.8ポイント）、中学生・高校生では減少し（中3：△2.6ポイント、高3：△5.2ポイント）、大学生では横ばいとなっている。
- ・高校2年生以外のすべての調査対象で、読書が「好き」が増加している（小3：+4.2ポイント、小6：+7.2ポイント、中3：+1.3ポイント、大3：+5.7ポイント）一方で、小学6年生以外のすべての調査対象で「嫌い」が増加（小3：+1.3ポイント、中3：+0.7ポイント、高3：+2.4ポイント、大3：+1.8ポイント）しており、二極化が見られる。

<問1>

- ・なお、類似調査では、全国と比較して本県の子どもたちは読書が好きな傾向がある。

<【参考】H29年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査結果から抜粋  
「読書は好きですか」という設問に対する肯定的回答の割合>

	本県	全国	差
小学6年生	75.7%	74.3%	+1.4
中学3年生	74.9%	69.9%	+5.0

### ②不読率（一ヶ月に一冊も本を読まない割合）

- ・前回調査と比較して、小学生～中学生では微増減にとどまったものの、一方で、高校生、大学生においては不読率が増加した。なお、すべての調査対象で一か月に6冊以上読んだと答えた割合が増加（小3：+8.3ポイント、小6：+9.0ポイント、中3：+0.2ポイント、高3：+0.7ポイント、大3：0.3ポイント）しており、本を「読む」子どもと「読まない」子ども

の差が広がっていると考えられる。〈問12〉

〈不読率の前回調査との比較〉

	今回 (H29年度)	前回 (H24年度)	差
小学3年生	4.5%	3.2%	+1.3
小学6年生	7.2%	8.5%	△1.3
中学3年生	14.5%	17.0%	△2.5
高校2年生	29.3%	21.3%	+8.0
大学生	35.8%	24.4%	+11.4

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本県の小学生、中学生の不読率は同程度。高校生の不読率は大幅に低い。

〈【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋  
不読率（5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもの割合）〉

	H29年度
小学生	5.6%
中学生	15.0%
高校生	50.4%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽出（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

調査期間：2017年6月1・2週

- ・一ヶ月に一冊も本を読まなかった理由としては、小学生、高校生では「スポーツ少年団や習い事があるから」が最も多い（小6：34.5%、小6：34%、高44.3%）。大学生では「勉強があるから」「アルバイトがあるから」が最も多い（どちらも21%）。〈問13〉
- ・中学生は「本を読みたいと思わない」が最も多いが（41.2%）、小学6年生、高校生においても2割を超えており、まずは本を手取るきっかけが必要だと思われる。〈問13〉

〈「本を読みたいと思わない」割合の前回調査との比較〉

	今回 (H29年度)	前回 (H24年度)	差
小学3年生	6.9%	15.0%	△8.1
小学6年生	22.6%	26.4%	△3.8
中学3年生	41.2%	32.0%	+9.2
高校2年生	26.6%	31.3%	△4.7
大学生	16.0%	37.2%	△21.2

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本を読まない理由として「読みたいと思わなかった」割合は全国と比較すると低い傾向にあると思われる。

〈【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋  
5月一か月の間に読んだ本の冊数が0冊の子どもの本を読まなかった理由〉

	読みたかったが読めなかった	読みたいと思わなかった
小学生	25.6%	59.4%
中学生	19.5%	57.0%
高校生	26.2%	57.3%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

※調査期間：2017年6月1・2週

### ③公立図書館の利用

- ・前回調査同様「0回」が、どの調査対象でも最も多く、大学生を除き、学年が上がるほどその割合が大きくなっている。＜問14＞

＜公立図書館に行く回数が一ヶ月に「0回」の割合の前回調査との比較＞

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	39.6%	34.4%	+5.2
小学6年生	53.0%	53.4%	△0.4
中学3年生	70.8%	72.7%	△1.9
高校2年生	84.6%	67.7%	+16.9
大学生	71.1%	67.0%	△4.1

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、同様の傾向が見られる。

＜【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋  
本を読むために公共図書館をどのくらい利用するかで、「ほとんど行かない」と答えた割合＞

	男子	女子
小学生	44.8%	32.5%
中学生	60.1%	53.0%
高校生	69.4%	64.9%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

### ④学校図書館の利用

- ・どの調査対象でも、前回調査時から比較し、「0回」の割合が減っている。学校（大学）図書館の活用が進んでいることがうかがえる。＜問18＞

＜1ヶ月学校（大学）図書館に行く回数が「0回」と答えた割合の前回調査との比較＞

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	1.9%	2.3%	△0.4
小学6年生	4.8%	6.1%	△1.3
中学生	31.2%	48.5%	△17.3
高校生	35.4%	47.5%	△12.1
大学生	20.0%	26.9%	△6.9

- ・どの調査対象でも「公立図書館」よりは「学校（大学）図書館」に行く割合が多く、特に小学生では95%以上の子どもたちが学校図書館を利用している。本に触れる身近な場所である学校図書館の重要性が認められる。＜問14と問18の比較＞

<公立図書館、学校（大学）図書館に行く回数が一ヶ月に「0回」の割合>

	公立図書館	学校（大学）図書館
小学3年生	39.6%	1.9%
小学6年生	53.0%	4.8%
中学3年生	70.8%	31.2%
高校2年生	84.6%	35.4%
大学生	71.1%	20.0%

- ・なお、類似の調査結果と比較すると、本県の子どもたちは学校図書館に行く割合が高いと思われる。

<【参考】全国学校図書館協議会、毎日新聞社 第63回学校読書調査から抜粋  
本を読むために学校図書館をどのくらい利用するかで、「ほとんど行かない」と答えた割合>

	男子	女子
小学生	20.1%	11.8%
中学生	42.2%	41.5%
高校生	66.3%	62.6%

※調査対象：全国の小学生（4～6年生）3,240人、中学生（1～3年生）3,070人、高校生（1～3年生）3,614人の抽（小・中学校は都市規模別、高校は学科別にサンプル校を抽出し、各学年1クラスで実施）

## ⑤電子書籍の利用

- ・電子書籍を利用したことのある割合は学年が上がるほど増加（小3：22.8%、小6：30.8%、中3：44.1%、高：44.9%、大：53.1%）しているが、大学生で約半数を超えるほかは、電子書籍をもっていない者や利用機器を持っていない者も含め、利用したことのない者が多数を占めている。

一方、前回調査と比較して、すべての調査対象で「よく利用している」が増加（小3：+1.2ポイント、小6：+7.1ポイント、中3：+4.5ポイント、高2：+0.6ポイント、大：+4.5ポイント）しており、中でも小学6年生は+7.1ポイントと大きく増加しており、電子メディア機器利用の低年齢化も影響している可能性がある。<問22>

<電子端末（タブレットや携帯電話やスマートフォンなど）を使った電子書籍の利用について「よく利用している」と答えた割合の前回調査との比較>

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	6.2%	5.0%	+1.2
小学6年生	10.4%	3.3%	+7.1
中学3年生	12.7%	8.2%	+4.5
高校2年生	14.1%	13.5%	+0.6
大学生	14.5%	10.0%	+4.5

- ・紙の本と電子書籍のどちらを利用したいかについては、前回調査同様、「紙の本を利用したい」が最も高く、また、前回調査時よりその割合は増えている。「どちらかといえば紙の本を利用したい」とあわせると、どの調査対象でも5割を超える。<問24>

＜紙の本と電子書籍のどちらを利用したいかについて「紙の本を利用したい」「どちらかといえば紙の本を利用したい」と答えた割合の前回調査との比較＞

	今回（H29年度）	前回（H24年度）	差
小学3年生	62.5%	57.0%	+5.5
小学6年生	57.7%	43.0%	+14.7
中学生	51.1%	44.1%	+7.0
高校生	61.8%	49.6%	+12.2
大学生	67.5%	60.6%	+6.9

#### ⑥読書習慣（高校生、大学生のみの質問）

- ・今の読書習慣はいつの時期から始まっているかについて、どちらの調査対象でも「小学生」が最も多く5割程度を占める（高：51.6%、大：48.3%）。「乳幼児期」を含めると6割を超える（高：71.8%、大：62%）。幼い頃からの習慣化が重要だと考えられる。＜問25＞
- ・現在の読書習慣に影響を与えたものについて、どちらの調査対象でも「学校での一斉読書（朝読書）」の割合が最も多く3割を超える（高：35.8%、大：30.3%）。また、「家の人の働きかけ」が2番目に多く（高：15.9%、大：25.2%）、「学校の先生や司書の働きかけ」（高：13.3%、大：18.5%）「友だち」（高：13.7%、大：10.9%）との回答も一定割合存在する。身近な存在が読書習慣の定着に重要な役割を果たすものと思われる。＜問26＞

#### ⑦保護者の読書習慣

- ・家庭で大人が読書をしているかについて、どの調査対象でも「たまに読んでいる」が最も多く、「よく読んでいる」とあわせると概ね5割程度以上の保護者が家庭で読書をしている。＜問27＞
- ・一方で「読んでいるのを見たことがない」が、どの調査対象でも2割程度存在している。＜問27＞